

# With

利用者と共に

職員と共に

地域と共に

vol.49



2023.6/1

高森荘からの情報発信 ウィズ

発行所 障害者支援施設 高森荘

〒399-3101 長野県下伊那郡高森町山吹4473-1

TEL.0265-35-6811 FAX.0265-35-6812

E-mail: f0720@amber.plala.or.jp

発行者 高森荘施設長 入野友宏



ある日の高森荘

## 虐待防止・権利擁護研修会

今回の県が指導する虐待防止権利擁護研修は、職員向けの研修ながら利用者の方にも参加して頂きました。

職員側や行政の視点を伝え、全国の実態調査の数字も詳らかにしつつ、高森荘として取り組む方向性を参加者全員で検討する貴重な機会となりました。

地域共生は単に地域と障害者に留まらず、施設と利用者も含まれます。その異なる立場を知ることが相互の自己覚知に繋がります。それが共生社会、虐待防止に繋がってゆく、そんな未来が垣間見えた時間でした。



# 令和四年度 高森荘事業報告

## 1、コロナ対策について

年度初めは3月末に発生した新型コロナウイルスのクラスター対策に追われる。保健所による治療薬投与と初動の感染管理により3月31日の陽性者を最後に事態は沈静化、4月12日に終息宣言となる。結果的にゾーニング等の感染制御の山場は発症から概ね10日間となった。施設は長く閉鎖状態であり感染源や経路は憶測、推測の域で特定はできなかった。伝染力や集団感染の恐怖に怯えた経験はBCPや今後の感染防止の糧としたい。

## 2、行事、生産活動、余暇活動について

昨年度同様に対外的な行事はすべて中止する。毎月「パソコンレク」「歌を愉しむコンサート」はレベラアップの実感で人気となった。生産活動は入所専用

に委託加工や出来高作業を受注し新たな展開を図る。作業場はゾーニングのためB棟やDルームの空きスペースを活用する。

## 3、中間(通過)施設としての役割

夏に70代、80代の方(共に在籍24年)が介護保険施設に移られる。体系移行後、利用者の皆様には終の棲家になれないと説明、お二人とも何年もかけご家族等の援助によりその思いを実現する。今年度は「人生会議(ACP)」に取り組むが、人生はご自身で決める意思決定の支援に今後も力を入れる方針。

## 4、職員の資質向上

介護福祉士試験に支援員(勤務年数4、25年)が合格する。これで生活支援員15名全員、パート職等を含むと20名が有資格者となる。社会福祉士は6名。その他、サビ管、相談支援専門員(各々6名)が更新研修等を受講、更なる増員も検討したい。



## みんなでモリ盛りの春の種祭り

「ペヤングソース焼きそばの大盛りが食べたい!」そんな利用者さんの声から始まりました。カップ麺を選び、その場でお湯を注ぎ3分待つてから食べる、シンプルですが満足度の高い企画となりました。

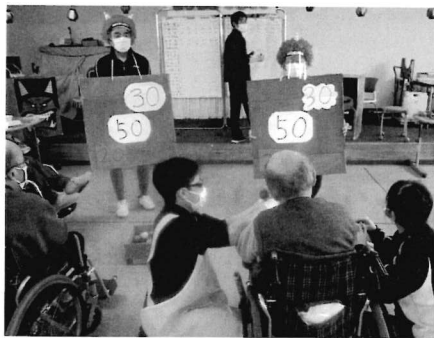
地域で暮らしていれば、仕事帰りにコンビニでカップ麺を買って食べるという当たり前の生活。しかし施設だと、誰かが決めた生活に文句も言えず淡々と過ぎる日々。お湯を注ぎ3分待つことさえも難しい現実。特にここ3年はほとんど外出、外食もできず、利用者さんにとっては息のつまる毎日だったはず。

「夢見心地でした。」と喜んでくれた利用者さんの笑顔。「次回は吉野家の牛丼大盛りが食べたい!」とさらに盛り上がりを見せ、春の開放感とともに、皆さんの意欲も高まりつつあります。

## 節分

2月1日、節分行事が行われました。

今年は赤鬼と青鬼に扮した職員に、一人ずつボールを当てて点数を付けていくゲームを行いました。自分のチームの鬼のめがけて投げられる様子は真剣でした!投げれないと思われた利用者様も自分からボールを取り投げる姿に、「運動が大事だな。」と思いました。楽しい時間を過ごした後は、年男、年女の方の抱負を聞きながら、イワシのご馳走を頂いたのです。



## 介護リフト導入

令和4年度介護ロボット等導入支援事業により据置型リフト「マキシスカイ」を導入。現在、ベットから車イスへの移乗支援に活用し、支援者の負担軽減につながっている。

リフトに関係して思い出すのは、昨年、実習に来た学生のポロシャツの袖。そこには「ノーリフティングポリシー」(持ち上げない介護)と刺しゅうされていた。私たちの現場はどうなのか?と考えさせられる瞬間だった。将来あの学生たちが、期待に胸を膨らませて就職したとき、幻滅しないように、「ノーリフティングポリシー」と自信満々に語れる、そんな事業所でありたい。



## 令和四年度 苦情解決の結果

合計	①サービスの質・量に関するもの	②事業所の建物の構造に関するもの
3件	1件	2件

# 5.5 支援委員会

当施設は虐待防止委員会を「いい支援委員会」と称しています。

委員会では相互理解を念頭におき、特に施設内研修は利用者との合同開催とし、事例検討含めお互いの理解を深めています。また新聞報道等回覧もOJTと位置づけ、虐待防止に対する意識向上の機会としてまいりました。

今後も日々の違和感、報道等常に話題とし、利用者職員共に高森荘一丸となり意識を高めてゆきます。

# 特別献立

コロナ禍で外出ができない等制限の多い生活にもなにか楽しみやうるおいを提供できないかと考え特別献立を企画しました。

毎年アルプスサーモン料理を提供してくださっている、高森町ご当地グルメ検討委員会へお願いしたところ、町内で日本料理店を営まれている中塚敏行様が快く引き受けてくださりました。

作っていただいたお弁当にはお品書きが添えられており、

## [活動内容]

活動日時	内容	対象参加者
R4.5/16	読むだけOJT 「高齢者施設虐待と職員の心のケア」	全職員
6/22	意思決定支援研修会	全職員、利用者
9/29	ハラスメント研修会③	全職員、利用者
10/16	委員会「県からの文書(虐待事件について)」	委員
10/18~10/28	高森荘利用者虐待防止宣言読み合わせ	全職員
11/14~R5.1/20	動画視聴「長野県障がい者虐待防止研修」	全職員
11/30	ハラスメント資料配布	全職員
12/31~R5.1/15	OJT動画「意思決定支援」	全職員
R5.1/5	委員会「飯田市内の事案について」	委員
1/27	障がい者虐待防止・権利擁護研修	全職員、希望利用者
1/28	ベッド柵検討(身体拘束)	生活支援員
3/10	委員会「利用者支援について 「高森荘用のチェック表について」	委員

彩り豊か。鹿肉や鯉のような地元食材も利用者の皆さんが食べやすいように調理していただいております。「これは珍しい!美味!美味しい!」とうれしそくに味わっておられました。心のこもったお弁当を準備していただき、本当にありがとうございます。



# 緊急時対応研修会



高森消防署より、救急救命士の方を講師にお招きし、「緊急時対応研修会」を行いました。実際に起こり得る窒息や転倒での頭部強打時の対応方法をはじめ、救急要請時の注意、救急車到着からの対応方法等、とてもわかり易く学ぶことが出来ました。

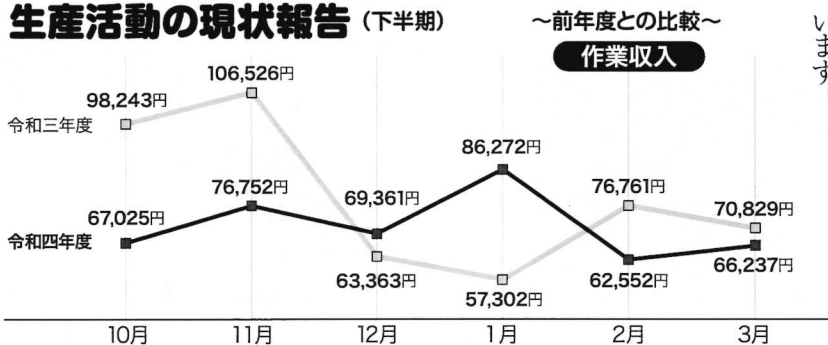
私たちの仕事は救命依頼をする機会が少なくありません。「もしもの時に適切な対応ができるのだろうか。自分の責任で利用者さんになにかあったら」と、不安を抱え日々業務を行っている私たちにとって、地元で活躍している救命士の方と直接交流を持てた今回の機会は、沢山の知識と、少しの安心感を得ることが出来たと良い研修となりました。

# 生産活動

コロナ禍による影響は根強く残っており、なかなか生産活動の仕事は安定しません。各取引先企業様のご理解もいただき、受注もコントロールして日々の活動を頑張っています。利用者の皆様も大きく体調を崩されることなく作業を続けてもらっています。

時には映画鑑賞などの余暇の時間を設けながら楽しんでいます。

## 生産活動の現状報告 (下半期)



# 2022年12月～2023年5月行事

紙面の写真・氏名については、利用者、ご家族、職員の同意を得て掲載しております。



12/12 忘年会

12/26 門松作り



2/1 節分豆まき

2/17-27 水害移送訓練



節分豆まき

3/1 みんなで盛り盛り春の麺祭り

3/6 春季 火災避難訓練



春季 火災避難訓練

4/1 開園記念日



忘年会



水害移送訓練



竜口にお住まいの矢沢浩太郎様より今年も正月飾りの「おやす」を頂きました。玄関や居室に飾らせていただき、よい新年を迎えることができました。毎年変わらずお気遣いいただき感謝しております。

地域の方より

## 編集後記

新年度になり早いもので2ヶ月が過ぎました。昨年度も外出制限があり、なかなか外の季節を感じていただくことができませんでした。4月に入ってから少しでも春を感じてもらおうとドライブレクに注視しながら、徐々に外出や行事を行っていききたいと思います。



健康長寿タオル  
山吹区ふれあい広場の代替として、75歳以上の方に健康長寿タオルを頂きました。

健康長寿タオル



感染症対策物品 寄贈  
高森町よりたくさんのご寄贈を頂きました

感染症対策物品